内発的地域づくりの検討
－宮津市養老地域のエコミュージアムを通して

三橋研究室　上田麻紀子

１．背景：エコミュージアムの必要性

現在、過疎化・少子高齢化が進む市町村において、国が2005年の「市町村の合併の特例法に関する法律（注１）」の延長の打ち切りを決定したことや、地方分権化を推進する方向性を打ち出したことにより（注２）、合併へ向けての動きが盛んになっている。

合併についてのメリット・デメリットについては多くの点が挙げられている（注３）が、その中でも、「地域の中核が失われる」「伝統・文化が失われる」「地域の絆が薄くなる」などの問題に関しては、内発的発展（注４）を志向し、「地域のアイデンティティ」の確立を目指す市町村においては重要事項ととらえられている。

京都府が策定した「京都府新総合計画（注５）」では、「施策展開の視点」の一つに、「地域特性の重視」が挙げられている。さらに、基本計画には「魅力ある地域資源の活用による交流・連携の促進」として、京都府内にあるフィールドミュージアムを拠点とした地域資源の発信や、それらのネットワーク化が提案されており、エコミュージアム（注６）の有効性がうたわれている。

このような中、京都府宮津市養老地域では、子々孫々まで海山の自然の恵みに依拠でき、若者が安心して定住できる地域を目指す、地域自治会員から構成される「未来委員会（注７）」が発足した。そこでは、エコミュージアムを通して地域住民のペースで地域づくりをしながら地域らしさを再構築しようという気運が高まっている。また、同地域は、都市住民と地域住民の交流によって地域活動を計画、共に実践していくことを目的とした京都府「共育の里づくり事業（注８）」の実施地域となっており、住民主体の内発的地域づくりが志向され始めている。

本研究では、当該地域の内発的地域づくりに外部メンバーとして参加し、エコミュージアム概念を用いた地域活性化の視点から継続的な調査を行ってきた。

２．レビューと研究の目的

三橋らは、新潟県山北町における「観光開発基本計画」策定のプロセスから、内発的発展の特質として町民主体、域内資源活用、日常的生活文化、全集落・全町民参加志向などの重要性を挙げ（注９）、歴史的、生産的、人的、環境的価値を当該地域において認識することの必要性を示している（注10）。

また、山口らは、地域資源を活用した体験教室において、「資源活用・地域外交流」、「世代間交流・集いの場」、「高齢者の生きがいと自立を応援する」などの効果を挙げている（注11）。

一方、大原は、エコミュージアムの要素として、自然資源・文化遺産などの保全、住民自身の主体的参加による管理運営、調査研究・収集保全・展示教育普及の一連の活動の重要性について論じている（注12）。

しかし、これらの既往研究において人的ネットワークを基軸とした内発的地域づくりの検討は、十分になされてこなかったといえる。

これらより、本研究では、地域資源の魅力を発見・体験し、エコミュージアムによる地域づくりという視点から、地域資源の採集と整理、人的ネットワーク資源の活用方法の提案などを行い、持続的発展に基づく「誇れる地域」「訪れたくなる地域」を目指す、内発的地域づくりの検討を目的とする。

３．調査・研究の経緯

委員会活動：未来委員会の活動に参加、委員会の方針や、地域資源の聞き取り調査を行った（2003/05/17～）。また、「共育の里づくり事業」の活動を企画、実施する「共育の里づくり協議会」に都市住民委員として参加、地域委員との意見交換や地域資源の聞き取り、体験イベントなどに参加した（2003/06/07～）。

フィールド調査：当該研究室において継続的に実践されている学外演習に参加、2001年から調査を行い、住民とともに地域資源の再発見・再認識を行う活動に参加してきた。2001年は養老地域内の奥波見集落において地域資源（水／人材／建築／宝物／動物）調査、地域住民を交えた発表会に参加、2002年は奥波見地域で地域のイメージを調査後、地域資源をモチーフ化して藍染めの手ぬぐいを製作。2003年は体験漁業に参加、養老地域９集落を対象とした地域資源（ルート検索／舟屋・食文化／シメカス／漁具作り／養老の音など）調査、現地発表を行った（2003/07～21）。また、養老地域全域において活動中の人的ネットワーク調査を行った（2003/11/29～30）。

体験学習：稲刈り、稲木干しを体験、漁協で行われた「海釣り祭り」に参加（2003/09/27～28）。地域住民の協力による釣りや柿渋染めなどのイベントを体験し、山と海の共存する地域ならではの楽しみ方を学んだ。

先進事例調査：丹後町「宇川温泉」の地域と都市の交流という視線からの施設づくりを視察し、大宮町において「常吉村村営百貨店」の元JAの建物を利用し、住民が主体となった店づくりの話を聞き取り調査した（2003/05/31）。

京都市大原では、朝市や環境整備に取り組む「大原里

づくり協会」と交流、意見交換を行った（2003/08/30）。また、滋賀県高月町雨森において、住民の楽しみを地域づくりへとつなげた事例を見学した（2003/10/10）。

また、地元ガイドによる観光の例として、京北町の「片波川源流カントリーウォーク」に参加、現状や今後の課題などについて意見を聞いた（2003/06/15）。

４．考察：ネットワークモデルの検討

調査により発見・体験をした資源を、データベース化するために、「自然的資源」（川の源流やビオトープ、タモの大木など）、「生活文化的資源」（養蚕の道具、地域の祭りなど）、「生産的資源」（そばうち、ぞうりづくりなど）、「景観的資源」（土蔵のある風景、野鳥の声が聴こえるスポットなどの景色や音風景）、「人的資源」（昔の仕事のについての語り部や、ものづくりの名人など）の５つのカテゴリーに分類し、整理した。

さらに、エコミュージアムを、地域ならではの遊びを体験する「遊」、食文化を体験する「食」、伝統や文化を学ぶ「学」、生業を体験する「業」、ものづくりを体験する「作」、五感を使い、感動・癒しなどを体験する「感」の６つのフェーズで構成される体験交流学習観光ととらえ、それを実現させるためには、上記の４つの資源と人的資源を組み合わせたネットワークの検討が必要と考え、現有資源を活かした、「地域交流館活動」や「海釣り祭り」　「日常に出会える養老の魅力」などのネットワークモデル（図１）及び活動情報カードを検討した。

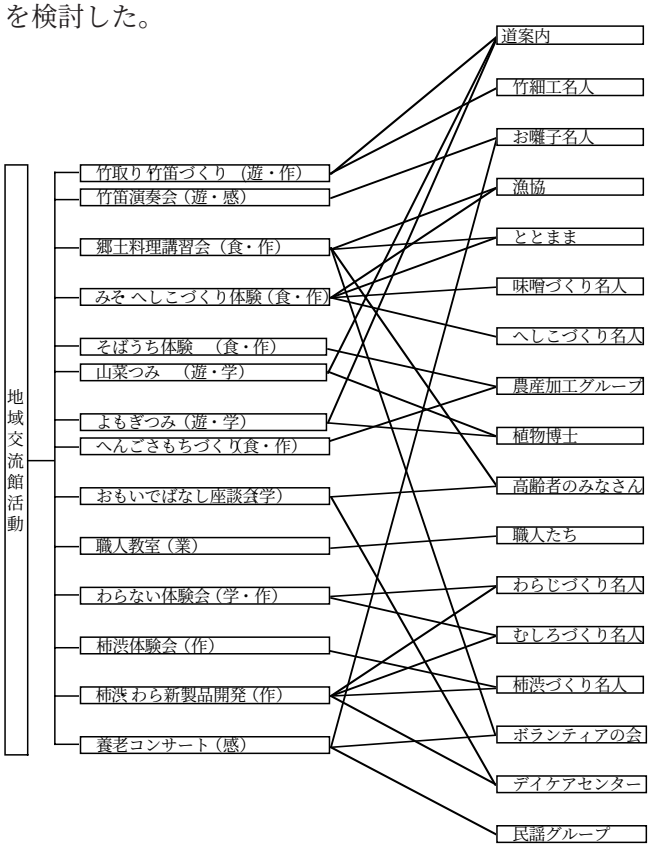

図１　ネットワークモデル事例（地域交流館）

５．おわりに

調査、資源の分類作業を通して、養老地域における内発的地域づくりの特質を以下のように明らかにした。

１）日常生活の飾らない姿を伝えることが地域の魅力を伝えることそのものとなるため、すべての住民がエコミュージアムのインストラクターとなり得る、２）地域の魅力を伝え、その反応を受けることで、自らの地域の価値を再認識し、誇りを生むことにつながる、３）自分たちの地域から住民レベルで地域づくりを始めようという動きが起こることにより、住民の地域づくりに対する意識は向上する、４）伝統文化を資源として発信することは住民の記憶にある資源を現代的価値観で見直すことになり、伝統文化の利用と継承につながる、５）住民が楽しいと感じて行うことこそが、地域の持続的活性化につながり、その地域づくり自体が、住民の楽しみともなる。さらに、その楽しみは地域内外に輪をひろげていくことになる。

注・参考文献

１）1965年制定以来10年ごとに延長されてきたが、2005年に延長を打ち切ることが決定。この特例法の特徴は、合併から10か年度は合併しなかった場合の地方交付税の全額が保障される、合併に際して必要となる新たな公共的施設等の整備に対して有効な地方債を利用することができる、などをはじめとする多くの財政支援が準備されていることである。大森彌、大和田健太郎：どう乗り切るか市町村合併、岩波ブックレット、2003

２）2000年４月に施行された新地方自治会法によって、地方分権化推進の方向性が打ち出された。各市町村は施策を実施していくための財政基盤を強化する必要があり、合併はそれらを解決する選択肢の一つとして推進されている。木佐茂男他、自治体の創造と市町村合併、第一法規、2003

３）総務省、合併相談コーナー
http://www.soumu.go.jp/gapei/menu-gapei2.html、
宮津市、市町村合併を考えるために
http://www.city.miyazu.kyoto.jp/~ gappei/leaflet/ などを参照。

４）内発的地域づくり（Endogenous　Development）とは、地域の資源である自然、歴史、生活文化、産業、そして住民が、地域づくりの主人公として主体的にかかわることのできる地域づくりを指す。三橋俊雄：丹後地域文化オープンカレッジ、15、古今書院、2001

５）21世紀の京都府社会のあるべき姿を念頭に、2001年から2010年までを計画期間とした計画。京都府、むすびあい、ともにひらく新世紀・京都－新京都府総合計画、2001

６）エコミュージアム（Eco　Museaum）とは1960年代フランスで生まれた、「地域社会の人々の生活と、自然環境、社会環境の発達過程を史的に研究し、自然遺産および文化遺産を現地において保存し、育成し、展示することを通して当該地域社会の発展に寄与することを目的とする」という博物館の概念を指す。新井重三：エコミュージアム理念と活動、牧野出版、1997

７）宮津市養老自治協議会：養老地域振興計画－健康で豊かに暮らす未来を目指して－、2003

８）宮津市共育の里づくり
http://www.city.miyazu.kyoto.jp/~ nousui/k.sato/

９）三橋俊雄、宮崎清：内発的地域開発計画の特質、デザイン学研究80、43-50、日本デザイン学会、1990

10）三橋俊雄、宮崎清：過疎地域振興計画書に見られる地域振興計画の志向性と特質、デザイン学研究92、67-74、日本デザイン学会、1992

11）山口眞里他、過疎地域における「地域資源を活用した体験教室」の機能と課題、デザイン学研究43、1-10、日本デザイン学会、1996

12）大原一興、社会文化の過程としてのエコミュージアム－現代社会における議論をめぐって、都市問題第92巻、27-38、東京市政調査会、2001